

經濟論叢

第七十六卷 第二號

マルクス＝エンゲルスの

ブルジョア革命理論……………堀 江 英 一…(1)

現代フランス労働政策史の一劃期……………向 井 喜 典…(21)

封建的所有と經濟外的強制を

めぐる理論的諸問題……………福 富 正 實…(44)

ペーカ・フィグーロフ

「ヨーロッパ人民民主主義諸國における

人民民主主義制度の發展の二つの段階

について」……………金 鍾 碩…(61)

[昭和三十年八月]

京 都 大 學 經 濟 學 會

ベ・カ・フィゲールノフ

「ヨーロッパ人民民主主義諸國における人民

民主主義制度の發展の二つの段階について」

П. К. Фигурнов

“О двух этапах развития народно-демократического строя в европейских странах
народной демократии,” > журнал философии < 1954, No. 5.

金 鍾 碩

中・東南歐諸國における人民民主主義制度は、ヒットラー・ファシズムに對するソ同盟の英雄的な解放闘争の、これらの諸國における廣泛な人民大衆の民族解放―反ファシスト運動との、および帝國主義に反對し、『自國』の大資本家と地主に反對する勤勞者連の激烈な階級的革命闘争との結合の基礎のうえで發生したのであつた。いまここに紹介を試みようとするベ・カ・フィゲールノフの表題の論文は、これらの國ぐににおける人民民主主義制度の發展を、その歴史的な特殊性とともに、極めて明解な筆致でもつて段階的に特徴づけているという

『ヨーロッパ人民民主主義諸國における人民民主主義制度の發展の二つの段階について』

點で、われわれに少なからざる意義をもつている。

彼はまずファシスト的侵略者どもに對するソ同盟の勝利が人民民主主義制度の發生に「決定的な役割」を演じたことをのべつつ、しかし「人民民主主義制度は、共産黨と勞働黨の指導の下に、これらの諸國の廣泛な人民大衆の民族解放運動と階級闘争の國內的高揚の情勢のなかで、すなわち階級的矛盾の累積の不可避的な結果として生じたという情勢のなかでのみ發生することが出來た」のであつて、「人民民主主義革命は自己の階級的内容・原動力により、自己の戰略上の任務により、ブロン

タリアートのヘゲモニーの下にブルジョア民主主義革命として發生した」ということを強調する。帝國主義時代における斯る革命の可能性を、レーニンは一九〇五年においてすでに豫見していた。この革命が「自國」の獨占資本と結びついた外國の侵略者からの解放のための全國民的な闘争から直接に成長してきたということは、これらの諸国において労働者階級によつて指導されたブルジョア民主主義革命の歴史的な特殊性であつた。

従つてそれ故に、この革命は反封建的革命であつたばかりでなく、民族解放—反ファッシスト、反帝國主義的革命でもあつたのである。人民民主主義革命の主要原動力は、いうまでもなくプロレタリアートであつて、彼らは自分達の周りに農民やインテリゲンツィヤなどの廣汎な人民大衆を、およびファッシストと外國の大資本によつて苦しめられている中・小ブルジョアヅの若干の愛國の分子を結集し、彼らを反ファッシズム、反帝・反封建的民族解放闘争に組織した。「これらの種々の革命的社會グループの環は人民民主主義革命の第一段階で提起された諸課題の性格を、この段階の性格を表わした。」そしてプロレタリアートのヘゲモニーは最も廣汎なブルジョア民主主義革命を附與し、かつその勝利を保證したし、さらにブルジョア民主主義革命から社會主義革命への、人民民主主義制度の發展の第一段階からその第二段階への漸次的、平和的移行の可能性をつくり出した。「一九四四年の秋から一九四七・八年まで續く第一

段階では、人民民主主義制度は國家—政治的諸機關において労働者階級の指導的役割の下におけるプロレタリアートと農民の革命的民主獨裁を表わした。これは革命的民主的諸改革の段階であつた。ブルジョア民主主義革命の完成ということが、この時期における人民民主主義權力の基本的任務であつた。」(傍點—金)

この段階における諸特徴は、(一)、外國の侵略者からの民族的解放、(二)、ファッシズムの完全絶滅、(三)、帝國主義的重壓の除去、(四)、土地改革の遂行、(五)、封建的—農奴制的諸關係の遺物の根絶、(六)、すべての社會的諸制度の民主化、(七)、國民經濟の復興などであつた。

(1)、人民民主主義の異なる國々では、勿論人民民主主義制度の發展の第一段階の繼續期間は様々であつた。すなわちチエコスロヴァキヤでは第一段階は一九四五年四月四日から一九四八年二月まで、ポーランドでは一九四四年七月から一九四七年の終り頃または一九四八年の中頃まで、ルーマニヤでは一九四五年三月六日から一九四七年の終りまで續いた。

人民民主主義制度の發展の第二段階の本質的特徴は社會主義的な型の諸改革であつた。すなわちこの段階では人民民主主義制度はプロレタリアート獨裁の諸機能を遂行し、社會主義の諸基礎を建設し、かつ勤勞者の廣汎な層を社會主義建設に引き入れる。勿論第一段階と第二段階とは革命の性格は全く異なる。

る、がしかし第二段階で十分に遂行されている社會主義的諸改革は、既に發展の第一段階で遂行され始めていたのであつて、

「このことはブルジョア民主主義革命の社會主義革命への進展過程を示すものである。」「その性格によるこれらの二つの異つた革命的段階は統一した・連續的な・革命過程を表わす。プロレタリアートのヘゲモニーの下におけるブルジョア民主主義革命は社會主義革命への必然的な準備である。」(傍點一金)

(2) 既に述べた様に人民民主主義諸國では民族的解放の事業に廣汎な社會層を包括し結集してゐた(第一段階)。このことはまた人民戦線や政府の構成内部にブルジョア政黨の代理人が入つてゐることを意味した。例えばブルガリヤにおけるニコラ・ペドコフ、ハンガリーにおけるナチ・フェリエーン、巴拉ンコヴィツ、ベイツフェル、ポーランドにおけるミコライチキ、ルーマニヤにおけるタートルスク、そしてチエコスロヴァキヤにおけるゼンクル、リープカ、シュラーメック、レットリツヒ、ゴッドジャーイ等々。

彼らの本性は廣汎な民主的諸改革(土地改革、國家機關・軍隊の肅清等々)の實施過程で、また人民民主主義制度を一層強化するための一連の社會主義的諸方策(工業・銀行の國有化、労働管理、勤勞農民の社會主義的協同組合化、階級的プロレタリアの租税政策等々)の遂行過程でバクテロされたし、そして彼らの陰謀は粉碎された。これはその後の右翼社

『ヨーロッパ人民民主主義諸國における人民民主主義制度の發展の二つの段階について』

會主義的諸政黨内部に潜んでいた帝國主義の代理人どものバクテロとも、これらの諸國の人民民主主義制度の一層の強化に役立つた。ついでに、一九四七年—一九四八年の時期において、ルーマニヤ、ブルガリヤ、チエコスロヴァキヤおよびポーランドでは共產黨と社會民主主義諸政黨の左派との合同がおこなわれ、統一労働黨が形成された。

さて人民民主主義革命の第一段階で遂行された重要な社會的・經濟的諸改革のひとつは土地改革であつた。なるほど「土地改革それ自体は社會主義的方策ではない」がしかし「その實行はブルジョア民主主義革命の基本的な課題の一つ」であるし、また「ブルジョア民主主義革命の社會主義革命への進展にとつて必要な條件であつた。」それはこれらの國ぐに於いて地主的土地所有關係を根絶し、反動的な地主階級に「致命的な打撃」を與えたばかりでなく、農民を農奴制的隷屬關係から解放したることによつて、労働者階級と農民の同盟が「本質的に」強化された。「中農は労働者階級の堅牢な同盟者となり、貧農はその支持者となつた」といわれる所以である。だが「土地改革の意義を評價するには、帝國主義の諸條件にあつては封建的上層部が金融資本と癒着しているから、彼らに對する打撃は金融資本に對する打撃でもあるという重要な事情を考慮することが必要である。」

この改革の實施後、人民民主主義諸國では第一段階において

すでに農業生産協同組合がつくられ始めていた。だが當時の農業協同組合には多くの資本主義的諸要素を含んでいた(たとえばそれには雇々クラーシクも加わり、彼らは部分的には雇傭労働を使用していて、土地賃貸が許されていた等々)。「従つて人民民主主義制度の發展の第一段階では、農業協同組合はそれにおいて社會主義的要素と資本主義的要素があつたところの過渡的形態であつた。」けれども「たとえその端初的諸形態においてにしろ、農業生産協同組合の發生はブルジョア民主主義革命の社會主義革命への進展の重要なファクターであつた。」

(3) 農業生産協同組合の数は、ブルガリヤでは一九四六年の終りに四百八十、一九四七年には五百四十九あつて、それらは十八萬ヘクタールの土地面積をもち、四萬四千五百五十九の農民經營を統一していた。ハンガリーでは一九四五年にすでに百の土地共同耕作組合(協同組合の最も低い型態)があつたし、ルーマニヤでは一九四八年に四百二十六の土地共同耕作組合があつた。アルバニヤでは一九四六年に七の協同組合(農業アルテリ型)があつた、が一九四八年にはその数は五十六に増加し、一萬ヘクタール以上の土地面積を有し、千百六十八の農民經營を統一していた。

經濟の分野で、この進展にとつて決定的なファクターとして役立つたのは、いうまでもなく國家的社會主義的所有的發生と發展であつた。この發展段階においてすでに、中央銀行、鐵

道、通信機關、各種の大企業、鑛坑およびその他の諸資本財等々が國家的社會主義的所有となつた。「人民民主主義制度の第一段階における社會主義的所有的發生と發展は社會主義的生產關係の形成と創出を意味する。何はともあれ、これにおいてブルジョア民主主義革命の社會主義革命への進展が見られる」のである。この様な社會主義的所有的發生と労働管理の導入とは、この段階においてすでに人民經濟計畫の着手を可能ならしめた。だが「多ウクラード的經濟の諸條件にあつては、それはすべての國民經濟部門とすべての企業とを包含することは出来なかつた。」

(4) 一九四六年には工業における社會主義的所有的割合は、ポーランドでは七九・〇%、チェコスロヴァキヤでは七五・〇%、ハンガリーでは五六・〇%、ブルガリヤでは三三・六%であつた。

つぎに人民民主主義諸國における第二段階への移行について見よう。

「すべての人民民主主義諸國での第二段階への移行はプロレタリアートの獨裁と社會主義建設の基礎の獲得を認識した新憲法の採用と結びついていた。」例えば、ブルガリヤでは第二段階への移行は一九四七年の終りに完成した。すなわちこの年の十二月四日の「偉大な人民議會」による新憲法の採用と十二月二十三日の私的工業諸企業と鑛山の國有化にかんする法律の採

用とによつて、プロレタリアートの獨裁と社會主義社會建設の基礎が固定された。二十六日には、更に「銀行の國有化法」が採擇された。これらの結果として、一九四八年の終り頃には全工業生産の九三%が國家の手中に在つた(協同組合は二%)、が私的領有ではたつた五%が在つたに過ぎない。ルーマニヤでは第二段階への移行は人民共和國が宣言された一九四七年十二月の終りに完成された。ルーマニヤ國民議會は一九四八年四月に新憲法を採用し、そして六月には工業、銀行、鑛業諸企業および運輸が國有化された。ハンガリーでは一九四七年の終り(または四八年の中頃)にこの段階への移行が完成された。ハンガリー議會は一九四七年十一月に十三大銀行の國有化法を採擇し、そして一九四八年三月二十五日には百人またはそれ以上の從業員を雇備せる諸企業が國有化された(一九四九年十二月二十八日には十人またはそれ以上の從業員をもつ工業諸企業が追加的に國有化された)。その結果一九四八年には全工業生産の八五%が、一九四九年には九二%が國家の手中に集中された。

チェコスロヴァキヤでは第二段階への移行は「反革命的暴動」を粉砕した一九四八年二月に完成した。チェコスロヴァキヤはこのいわゆる「二月事件」後に大規模な國有化(例えば五十人以上の労働者を雇備するすべての諸工場)を遂行した。その結果一九四九年にはこの國の工業生産の九七・五%が國家の手中にあつた。最後にポーランドではこの段階への移行は一九四七年

の終りに完成した。それは例えば一九四六年一月におけるすべの大・中諸工業の國有化の實施と六月における「ブルジョア的三院議會制」の根絶と九月における人民經濟復興發展三ヶ年計畫(一九四七年—四九年)にかんする法律の採用において見い出される。とりわけ一九四七年の終りにミコライチイクとその一味の國外への逃亡によつて完成された。

人民民主主義諸國において、發展の第二段階への移行で重要であつたのはこれらの國々に社會主義的工業化ということであつた。これらの國々には特有の歴史的諸條件のなかで、つまりソ同盟からの巨大な技術的・經濟的援助とこれら相互間の經濟的協力の下で、一比較的に限られた經濟的諸資源」を持ちつつも、「歴史的に最短期間」において、その工業化を實現することが出來た。「人民民主主義諸國における社會主義的工業化の歴史的特殊性は、さらに平和的・民主主義的市場の諸條件のなかで、社會主義陣營の國家間の分業の基礎の上で工業化が行われているということに存する。これによつて各人民民主主義諸國は、かつてソ同盟で起つた様に、別々に自國で重工業の總生産體を發展させる必要はないのである。いま各國の工業化について見るに、ブルガリヤは短期間に以前の後進的農業國から發展せる重工業をもつ工業國に變つた。一九五三年において社會主義的ウクライナの占める割合は、國民所得で七九・四%、工業總生産高で九八・六%以上、そして總商品取引

『ヨーロッパ人民民主主義諸國における人民民主主義制度の發展の二つの段階について』

では九九・六%であつた。さらに農業ではその割合は六〇・五%であつた。ルーマニヤは、一九五三年に社會主義的ウクラードの割合が國民所得で凡そ七五・〇%、工業總生産高で九九・〇%、卸賣商業で一〇〇%、そして小賣商業で七七・七%をもつところの工・農業國に變つた。ポーランドとハンガリーも亦短期間に農・工業國から發展せる工・農業國に變つた。ポーランドでは社會主義的ウクラードの割合は、國民所得で七五・〇%（一九五二年）、工業總生産高で九九・〇%（一九五三年）、農業では一九五三年に二〇・〇%、小賣商業で九六・一%であつた。チェコスロヴァキヤは五ヶ年計畫によつて、工業の一方的な性格が克服され、重工業の高い比重をもつ工業國となつた（一九五三年には重工業の比重は六二・三%、輕工業のそれは三七・七%）。一九五三年において社會主義的ウクラードの占める割合は、國民所得で九二・〇%、工業では九九・六%、農業では四三・〇%、そして小賣商業では九九・五%であつた。アルバニヤもまた五ヶ年計畫（一九五一年―一九五五年）によつて後進的農業國から農・工業國に變つてきている。

これらの國ぐにの社會主義化の諸條件の特殊性は、これらの國ぐにで既に達成された重工業の水準と同盟からの諸援助に依據して、「ソ同盟よりもずっと早い段階において、資本主義から社會主義への過渡期において生産手段の生産の優先的發展の維持と相並んで消費對象の生産のより速やかな發展へ移行す

る可能性」をもつていふことにおいて現われている。またこれらの國ぐには土地の私的所有の基礎の上で農業の社會主義的改造がおこなわれているといふことである。いまこの段階での農業の社會主義化の状況を見ると、ブルガリヤでは一九五三年に全耕地の六〇・五%を耕作し、かつ全農民經營の五二・三%を統一せる二千七百四十七のTKZXXがあつた。ルーマニヤでは一九五三年に生産協同組合は二十八萬の農民家族を統一し、そして全耕地の二四%を耕作していた。ポーランドでは一九五三年に八千をこえる農業生産協同組合があつたし、これに加入せる農民數は二十萬人に達していた。ハンガリーでは一九五三年に全農民經營のほぼ二〇%を統一せる四千六百七十七の生産協同組合があつたし、またチェコスロヴァキヤでは一九五三年にこの國の耕地（國家經營の土地を除く）の三二%を耕作し、かつ二十六萬二千の農民經營を統一せるころの六百七十九の統一農業協同組合があつた。

さてそれでは最後に、「特有の歴史的諸條件」のなかで發生した人民民主主義革命の特殊性について、フィゲールノフの説明をきこう。

周知のように一九一七年にロシアでは二つの「革命的爆發」（第一回目の爆發は一九一七年の二月に、そして第二回のそれは十月に）が起つた。だが人民民主主義諸國では、ファッシスト侵略者どもに對するソ同盟の勝利とこれらの諸國の廣汎な人

民大衆の民族解放運動の下で立ち立てられたプロレタリアートと農民の「民主的獨裁」は、プロレタリアートのヘゲモニーの下で、ブルジョア民主主義革命を遂行しうる可能性を興えた。だからここではロシアの場合とは異つて、「二つの革命的爆發を必要としなかつた。」すなわち「共產黨によつて指導される斯る權力は、反動諸勢力の狂暴な反抗を壓し潰すことによつて、人民民主主義諸國においてブルジョア民主主義革命の社會主義革命への進展を保證した。プロレタリアートのヘゲモニーの下での労働者階級と農民の獨裁の存在は新しい革命的爆發を餘分のものたらしめた。労働者階級の獨裁は、人民民主主義諸國で

はブルジョア民主主義革命の社會主義革命への漸次的な進展の基礎の上で、激烈な階級闘争の諸條件における反動的諸勢力の必死の反抗の鎮壓の基礎の上で、ブルジョアジーの政治的並びに經濟的地位の徹底的な弱体化と人民民主主義的國家權力の確固たる強化の基礎の上で生じた。人民民主主義諸國におけるプロレタリアート獨裁の發生過程の最も重要な歴史的特殊性はこれに存しているのである。」そしてこの歴史的特殊性がヨーロッパ人民民主主義諸國におけるプロレタリアート獨裁の形態の特^ズ有^ク性をすら豫定したところのものである。

一九五五年四月十五日

執筆 者 紹 介

- | | |
|---------|--------------|
| 堀 江 英 一 | 京都大學助教 |
| 向 井 喜 典 | 京都大學大学院研究獎學生 |
| 福 冨 正 實 | 京都大學大学院學生 |
| 金 鐘 碩 | 京都大學大学院學生 |